

※実務経験のある教員による授業科目

**授業概要**

観光産業や観光の事象を捉える理論や方法論について学び、今日の社会で観光が果たしている役割を検証し「観光とは何か」という定義を理解する。観光の種類、経済的・社会的な効果、観光地の開発と管理、観光客の行動と心理などの幅広いテーマを含む。観光の多様な側面を理解し、観光産業や地域の持続可能な発展に貢献する学生を育成するために、観光を学問として体系的に学ぶ基礎となる講義を行う。実践的な事例やデータを用いた学びが、より深い理解を促進する。観光庁が進めるこれからの観光産業を支える「観光DX検定」も講義に取り入れて、資格取得の一助とする。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション 評価方法・受講ルール、観光産業の歴史から国策としての観光業へ
第 2 回	観光の基礎① 日本の観光産業の現状 vs 観光先進国、アウトバウンドからインバウンドへ
第 3 回	観光の基礎② 個人旅行化+OTA の成長＝変わる旅行業界の構造
第 4 回	観光の基礎③ 観光のデータサイエンス「観光DX」①
第 5 回	観光の基礎④ 観光の需要予測「観光DX」②
第 6 回	テーマ別観光の魅力① 宿泊業界の行方：外資系ホテル日本進出と日本の宿泊業界の生き残り
第 7 回	テーマ別観光の魅力② 旅行代理店から交流創造へ：世界一の旅行会社が目指すもの
第 8 回	テーマ別観光の魅力③ 世界遺産と観光業① 3大宗教と大航海時代、理解度小テスト①
第 9 回	テーマ別観光の魅力④ クルーズマーケット、日本版ディズニークルーズの深くて広い可能性
第 10 回	インバウンドの考察① 世界が認めた「日本の伝統芸能」と「IPビジネス」
第 11 回	インバウンドの考察② 「ガストロノミーツーリズム」と富裕層マーケットの取り込み
第 12 回	インバウンドの考察② 世界遺産と観光業② 無形文化遺産「和食・日本酒」
第 13 回	観光業の未来① ライドシェア、eVTOL、自動運転が移動を変える
第 14 回	観光業の未来② 観光促進と環境保護
第 15 回	観光業の未来③ 「観光DX検定」受講・受験について、振り返り、理解度小テスト②
第 16 回	試験もしくは最終レポート提出

**到達目標**

- ① 観光とは何か、を理解し、その変化と今後のマーケット予測ができる。
- ② 旅行会社・航空会社・宿泊業・テーマパーク各業界の今後の戦略を明確に理解し説明できる。
- ③ インバウンドを中心とした観光の多様性に進路先としての可能性を見出し、観光産業への関心を高めることができる。
- ④ 「観光DX検定初級資格」の取得を目指しデジタルトランスフォーメーションのことが理解できる。

**履修上の注意**

- ・授業計画は変更になることがあります。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと連動する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・「観光DX検定初級」(12月予定)を受験する際の検定料(2,500~3,000円予定)は別途個人負担。
- ・授業開始から30分までは遅刻として受講を認める。30分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席扱いとし、欠席の累計が5回を超えると単位付与は行わない。

**予習・復習**

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード(関連する用語)を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に望むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

**評価方法**

- 以下の3項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
- ・平常点(毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の取組み) 50%
  - ・理解度小テスト(前半・後半、2回実施) 30%
  - ・最終課題レポート 20%

**テキスト**

テキスト指定なし。PPT資料を作成し、メモを取る形式の講義を行います。